



ごあいさつ

花だよりのうれしい季節、皆さまお元気で過ごしのこととお慶び申し上げます。昨年7月の仙台市議会議員選挙で宮城野区から選出いただきました大河原ふゆこと申します。小学生の頃から世の中をよくしたいと政治に関心を持っていましたが、皆さまのあたたかいご支援を受け、第一歩を踏み出すことができました。

早いもので任期が始まってから半年以上が経ちました。議会での一番に問うたのは、仲間と取り組んできていたコロナワクチンや感染症対策の問題点です。これまでの仙台市議会でどなたも発言しなかった問題です。さらに、現役子育て中の母として、学校給食における地場農産物利用やオーガニック化、LGBT理解増進法成立に伴う過激な性教育への懸念等も質問しました。また、文化芸術の仕事をしてきたことから、仙台市が新しくつくる公共文化施設(音楽ホール)について、期待を込めて質問もいたしました。

引き続き、皆さまのお声をしかと聴き、よく学び考え、積極的な政策提言を含め、精いっぱい取り組んでまいります。

令和5年第3回定例会 本会議・一般質問

Q1 新型コロナワクチン接種による健康被害

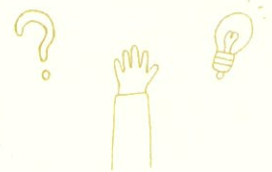
コロナワクチンによる健康被害が増大しており、本市でも接種後死亡された方もいる。死亡や重篤例を含めた被害実態の周知をHP等で行ってほしい。ワクチン接種を繰り返すと自然免疫力が低下し、逆にウイルスに感染しやすくなるという研究結果も出ている。オミクロン株(XBB1.5)対応1価ワクチンのうちファイザー製ワクチンはマウスでしか治験を行っておらず、人への接種でどのような影響が出るか全く分かっていない。国に対しては被害実態の検証と接種停止を、また、市民への健康被害救済制度の周知も求める。

Q3 LGBT理解増進法の成立を受けての本市における対応

LGBT理解増進法が施行されたが、教育現場での行き過ぎた性教育の実施に懸念を持っている。性違和を感じる子どもたちに教育現場が対応していくことは大切だが、学童期から思春期は、ゆらぎを持ちながら自己のアイデンティティを確立していく大切な時期である。「性的指向」や「性自認」を過度に教えることは、子どもたちの不安などを性違和の問題に帰結させ、本当の問題を見えなくしないか?子どもの頃に感じた性違和のうち、86%が自然消滅するという研究結果もある。本市においては、性自認、性的指向についての教育を、これ以上、踏み込んだ形で進めるべきではない。

Q2 学校等での新型コロナ感染対策後の子どもたちのケア

新型コロナは、子どもでは重症化することはほとんどなく、むしろインフルエンザのほうが重篤な病気である。にも関わらず仙台市内の学校や幼稚園等では厳しい感染対策が行われてきた。特に子どもにとってマスクは脳を含めた心身の発達を阻害することも指摘されている。約3年間行い続けた指導と同じぐらいの熱量と慎重さで、マスクを外して表情を見せ合い、身体的な活動経験を豊かに提供していく取り組みが、教育や保育の現場で必要ではないか?



ふゆこが歩く!!
声を聞かせてください

子育て支援団体、子どもの連れ去り別居に遭った親御さん、農業の方等々、現場の声から考えます! コロナワクチン接種に関する陳情書提出を仲介! 市政報告会や茶話会を開催! 「政治を身近に感じた」という声を多数いただいています。

学校給食における地場農産物の活用 およびオーガニック化

Q. 学校給食での地域農産物の活用や有機農産物の活用を求めたい。子どもたちに安心・安全な給食を食べさせたいというお母さんたちの声も聞いている。国も「みどりの食料システム戦略」で有機農業の拡大をうたっている。本市でも環境保全米は提供されているが年間5ヶ月分ほどにとどまる。モデル校を設定し、生産者との調整、農作物の納品の仕組みの検討等を行なうのはどうか？

A. 地場産物の利用は、食育、また環境教育の観点からも非常に重要であると認識している。先進自治体の事例等を調査しながら、モデル的な取り組みの実施可能性等についても検討してまいりたい。

詳しくは録画映像
をチェック！



- (仮称) 仙台市文化芸術推進基本計画
(中間案) および音楽ホール
- パートナーシップ制度
- WHOパンデミック条約および国際保健規則改正

文化芸術活動には、人があるがままを認められ尊重され、自分らしく人生を生きられる、創造性を発揮できるといった、本質的な力があると捉えている。文化芸術により市民1人1人の心や精神の領域が豊かに耕されることが、巡り巡っては本市の活性化にまでつながりゆく。新しい仙台市の文化芸術推進基本計画および音楽ホールが、仙台の土地に長く息づいてきた地域固有の文化の振興はもとより、住民参加型のプログラムや創造事業、また、福祉や教育、まちづくり等々、様々な分野と結びつき社会課題に対応していくことを期待する。

詳しくは録画映像
をチェック！



健康福祉局への質疑

新型コロナウイルス感染症対策および 新型コロナウイルスワクチンについて

Q. コロナ陽性判定に使われたPCR検査、抗原検査は水でも陽性反応を示したという報道もあったなど不確かであり、また厚労省からコロナ陽性者であれば、厳密な死因を問わず死亡報告するようという文書が出ていた。本市ではコロナ陽性者で亡くなられた方が475名いらっしゃるが、そのうちウイルスが直接の死因で亡くなられた方の人数は把握できているか？

A. 直接の死因は感染症法の届出内容からは把握することはできない。

Q. 2021年から日本における超過死亡数が戦後最大となっており、コロナ死や高齢化では説明がつかない。本市における死亡者数も増えている。令和5年1月は1,271名の方が亡くなっており、東日本大震災の平成23年3月に亡くなった方1,204名よりも多い。検証が必要ではないか？

詳しくは録画映像
をチェック！



<議会活動>

- 市民教育委員会(常任委員会)…市民局、教育局、消防局が所管する事項について、調査および議案・請願などを審査しています。
- 子育て環境充実審査等特別委員会…児童発達支援、特別支援保育・教育について、調査および審議を進めています。
- 広報委員会…議会ホームページや市議会だより等、議会の広報に関することを協議し決定しています。

教育局への質疑

発達に課題を抱える 児童生徒への対応について

本市でも発達に課題があるとされる児童生徒がここ10年で約1.5倍と増加している。しかし、子どもの気になる行動から“障害”と捉えたり、アーチルや医療機関の診断につなげる前に、生活の見直しや愛着の土台を築く対応が必要ではないか？かつては地域の相互扶助関係の中で自然に学んでいた子育てが難しくなっている。学校が地域や専門家と連携した教育、子育て支援を進めてほしい。

詳しくは録画映像
をチェック！



<編集後記>

最後までお読みいただきありがとうございます。仙台市議会全体の議論や私自身の質疑や活動等々、今後もより深く分かりやすい共有に努めてまいります。皆様のご意見や想いもぜひお聴かせください。共



に、日々心豊かに過ごせる仙台をつくってまいります。純粋に子どもたちの未来を想い、現実を1ミリずつでも着実に変えていくために、行動してまいります！

大河原ふゆこ

1981年宮城県栗原市栗駒生まれ。築館女子高校卒業、中央大学文学部社会学科卒業、学習院大学法学部政治学科中途退学。自然エネルギー業界で地域住民主体の循環型エネルギー社会づくりを推進。その後、文化芸術の世界で劇団制作やアートマネージャーとして活動。令和5年7月の仙台市議会議員選挙で初当選。仙台門松みやぎの発信隊特別顧問。5歳の男の子を子育て中。

発行人：大河原ふゆこ 会派：せんだい自民・参政の会

事務所：〒983-0865

仙台市宮城野区元寺小路306-13-201

info.fuyuko.o@gmail.com

ネットで検索

大河原ふゆこ

